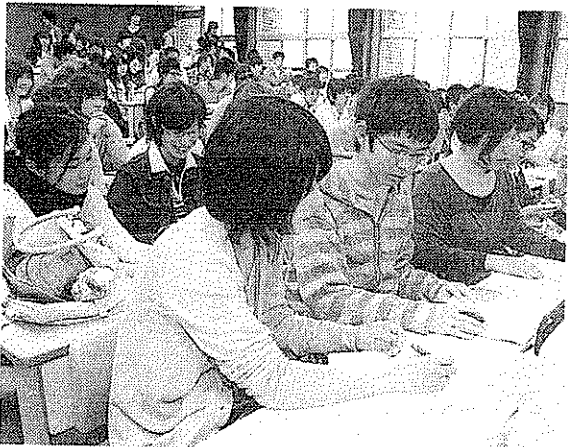


佐賀大では今年度からノートテイクの本格的な支援を開始した。写真は佐賀大の講義風景



佐大の「ノートテイカー」

新年度が始まった佐賀大学のキャンパスに「ノートテイカー」の募集のチラシがあった。教務課が学生たちに呼びかけている。「ノートテイカー」とは何かと思えば、担任に尋ねてみた。

ノートテイカーとは、聴覚障がいのある学生が受ける授業に出席して、その学生の隣に座り、先生が話すことや授業の雰囲気などを同時通訳的に伝える人のことをいう。平成十七年に行われた全国調査では聴覚障がいのある学生が在籍している大学は、過去三年間も含めると四割に達している。その半

は、その半し込みがなるといって担当者の意見を予想していたので、こんなに多くの学生がとつれしくなった。

一、二学ノートテイカー支援ハンドブックには、九十分授業で障がいのある学生を真ん中に二人のノートテイカーが座り、十分(二)に交代して先生の話を忠実に記録していく。すばやく書くために、分らない漢字はカタカナにするとか、何度も出てくる単語は略化するなどの工夫がまじってテックと心構えについて書いてある。応募してきた学生たちには今後このような講義が行われる。

ノートテイカー

聴覚障がい生を支援

障がい学生と同じ科目を履修する学生には、報酬ではなく終了時に「ボランティア証明書」を発行する(これも検討されている)。

「教科書をのまり使わない大学の授業では先生がどんな話をしているのか分からず、みんながごとく笑ったときもその意味が分からず孤独になっていく。支援を受ける(二)により「効果的な支援を受ける方法や就職のことなどを考えるようになった」と、ハンドブックには支援を受ける側の学生の変化も書いてあった。(佐賀大学理事・北島悦子)

※次回は十三日の予定です。

佐大で8日開講

佐賀環境フォーラム

市民が学生とともに

環境問題について学習・研究する「佐賀環境フォーラム」が8日、佐賀大学本庄キャンパスで開講する。フォーラムは佐賀

市が佐大と連携し、二〇〇一年から開催。今年は五月八日から七月十日の間に講義を十二回開くほか、現地見学など体験講座を実施する。

講義は主に木曜日に行われ、社会人でも受講しやすいよう午後七時から二時間。大学教員やNPO役員などを中心とした講師陣が、企業会計と環境問題との関係、宮崎駿作品を通して見るエコロジ―などについて講義する。

受講には申し込みが必要で、募集人数は三百人。一般市民や高校生以上の学生、法人が対象となる。受講料は学生千五百円、ほかは五千円。スポット受講も可能で、一講義につき学生三百円、ほかは千円。問い合わせは市環境教育推進係、電話0952(30)2430へ。